

事務事業名	水産業・漁村活性化推進事業（県単 平成22年度～）
事業の概要	<p>漁業者の減少や高齢化、水産資源の減少など水産業を取り巻く状況が厳しいなか、県全体の中長期的な振興策の方向性の明確化と併せて、地域においても、持続的な漁業生産や漁村地域の活性化に向けた地域の将来ビジョンが必要であることから、県全体の振興ビジョンの策定とモデル地域において、それらを検討する体制を整備し、地域の漁業者自らが漁業の現状を知り、将来に向かって考え、計画をつくり、行動することを促進します。</p> <p>①水産振興策あり方検討事業 県全体の水産業・漁村における中長期の振興計画を策定します。 ・漁業関係者等との意見交換会の開催 ・漁業者意識調査の実施</p> <p>②地域漁業構造改革推進モデル事業 モデル地域（1事務所1箇所）を選定し、関係者による検討会を設置して、地域の将来ビジョンを策定します。</p>
助成対象等	県事業
県予算額	1,848千円（21 - 千円）
担当室・グループ	水産資源室 水産政策グループ（059-224-2522）

事務事業名	マハタ・クエの種苗生産・養殖高度化技術開発事業 （県単 平成19年度～）
事業の概要	<p>マハタ、クエを東紀州の地域ブランドとして定着をはかるため、高品質種苗を安定して生産する技術を確立し、漁業者等への種苗供給体制を整えとともに、養殖技術の高度化に関する技術開発を行います。</p> <p>（事業の内容）</p> <p>①マハタ・クエの種苗生産の高度化技術開発 育種に関する研究に取り組み、養殖に適した優良な種苗の生産技術を開発します。さらに、種苗生産の生産性向上と種苗の高品質化を図るため、最適な飼育環境を検証します。また、中間育成期の飼育水として、海洋深層水の活用に関する試験にも取り組みます。</p> <p>②養殖高度化技術開発 マハタについて、養殖規模での自発摂餌システムの有効性を検証するとともに、飼料組成の検討を行います。クエについて、海面養殖の実現性を探るとともにマハタVNNワクチンのクエへの有効性を明らかにします。</p>
助成対象等	県事業
県予算額	5,875千円（21 6,528千円）
担当室・グループ	水産資源室 水産政策グループ（水産研究所 0599-53-0016）

事務事業名	希少な真珠の生産技術の開発に関する研究（県単 平成19年度～）
事業の概要	<p>現在流通しているアコヤ貝真珠の中で最高品質とされる白色系真珠の花珠（はなだま）と双璧をなす「希少な真珠」を生産するアコヤ貝の作出技術および適切な養殖条件を明らかにするため、以下の課題に取り組めます。</p> <p>①希少な真珠の生産メカニズムの解明 真珠の色調に及ぼすピース貝の殻体真珠層黄色度や養殖条件（母貝種、養殖期間等）の影響を検討し、希少な真珠を生産するピース貝の黄色度や養殖条件を明らかにします。</p> <p>②希少な真珠生産貝の作出技術の開発 殻体真珠層黄色度の異なる親を用いて種苗を生産し、黄色度の遺伝性について検討するとともに、希少な真珠生産貝をつくる親貝の黄色度の基準を明らかにします。</p> <p>③希少な真珠生産貝の養殖特性の把握 殻体真珠層黄色度の異なる親を用いて生産した種苗の養殖特性を明らかにします。</p>
助成対象等	県事業
県予算額	2,600千円(21 2,889千円)
担当室・グループ	水産資源室 水産政策グループ（水産研究所 0599-53-0016）

事務事業名	水産業による水質浄化機能の向上技術開発事業（県単 平成19年度～）
事業の概要	<p>ノリの品種改良や養殖不能ノリ網の再生技術およびアサリ・ヤマトシジミ・アコヤガイ等の二枚貝類のへい死防止技術の開発に取り組み、二枚貝、ノリの漁獲を通じて閉鎖性海域に流入あるいは堆積した栄養塩類の除去を図ります。</p> <p>①ノリの品種改良及び育苗再生技術等の開発 高水温耐性に優れた品種の開発及び各漁場の特性に応じた優良品種の開発を行います。また芽落ちしたノリ網を再生する技術を開発します。</p> <p>②アサリ等二枚貝の資源量増大対策 桑名市および伊勢市地先において、貧酸素水塊の波及機構とそれに対応する二枚貝の生理的変化、生残状況を調査し、被害軽減策を検討します。</p> <p>③環境対応負荷低減型真珠養殖管理技術の開発 真珠養殖において、漁場環境と養殖管理技術の関係を体系化するとともに、それらを養殖管理マニュアルとして取りまとめ提供します。</p>
助成対象等	県事業
県予算額	3,866千円(21 4,324千円)
担当室・グループ	水産資源室 水産政策グループ（水産研究所 0599-53-0016）

事務事業名	アサリ資源回復促進技術開発事業（県単 平成22年度～）
事業の概要	<p>伊勢湾の漁業で重要な採貝漁業は、主要な漁獲対象であるアサリ資源の減少により漁獲量が大きく減少し、厳しい状況が続いています。採貝漁業の振興を図るためには、アサリ資源の保護、育成による資源回復が不可欠であることから、より効果的な資源管理手法を開発するとともに、漁場環境の改善による稚貝の生残、成長の向上効果の調査を実施します。</p> <p>① 現在の漁業調整規則で定められている制限殻長の2cmを変更した場合の資源量を試算するためのモデルを作成し、併せてサイズごとの水揚げ単価を調査することによって、資源管理と収益性の向上に効果的な制限殻長を明らかにします。</p> <p>② また、制限殻長を変更し資源量が増減した時の、アサリによる水質浄化効果についても試算します。</p> <p>③ 水流噴射ポンプにより海底耕耘を行って漁場環境を改善し、アサリの稚貝発生、成長、生残等の向上効果を調査します。</p>
助成対象等	県事業
県予算額	2,314千円(21 - 千円)
担当室・グループ	水産資源室 水産政策グループ(水産研究所 0599-53-0016)

事務事業名	新しい真珠養殖技術実証化事業（県単 平成22年度～）
事業の概要	<p>真珠養殖は、三重県における重要な産業のひとつであり、生産物は三重ブランドにも認定されていますが、世界同時不況の影響による需要の減少により深刻な状況に陥っており、生産性を向上させる新しい養殖技術の普及が喫緊の課題となっています。</p> <p>水産研究所では、平成21年度までに実施したプロジェクト研究により高生残の貝を作出する技術と、真珠品質を向上させる技術の開発に成功しました。今年度から実施するこの事業では、開発した新しい真珠養殖技術を生産現場に普及・定着させることを目的とした実証化試験を行います。</p> <p>(1) スーパーアコヤ貝試作品の養殖特性の把握</p> <p>①平成20年度に生産したスーパーアコヤ貝試作品(片親を「閉殻力」のみで選抜)を用いた養殖試験を実施し、真珠の品質の向上効果を調査します。</p> <p>②平成21年度に生産したスーパーアコヤ貝試作品(両親を「真珠の巻き」と「閉殻力」で選抜)の成長、生残、生理状態などを調査し、養殖特性を把握します。</p> <p>③簡便な選抜手法を検討するために、閉殻力と近赤外線のみで選抜したアコヤ貝を生産し、成長、生残、生理状態などの養殖特性を把握します。</p> <p>(2) 環境制御による養生技術の確立</p> <p>陸上水槽における養生の際の効率的な条件(収容密度、養生期間)を調査します。</p>
助成対象等	県事業
県予算額	1,882千円(21 - 千円)
担当室・グループ	水産資源室 水産政策グループ(水産研究所 0599-53-0016)

事務事業名	干潟・藻場の回復・再生技術開発事業（県単 平成19年度～）
事業の概要	<p>平成19年度まで実施した地域結集型共同研究事業（閉鎖性海域の環境創生プロジェクト研究）で得られた成果を発展させ、より実効性の高い干潟・藻場の造成、再生技術を開発します。</p> <p>①沿岸遊休地の干潟・藻場・再生・回復手法の開発 潮止め堤防内湿地の海水交換による生態系の変化を把握し、干潟への再生技術を開発します。また、細胞培養によるアマモ場造成用種苗の量産技術開発に取り組みます。</p> <p>②英虞湾における既設干潟・藻場の長期的変化の把握 英虞湾内に造成した人工干潟・藻場を長期的に追跡し、地形の変化や生態系の安定性を評価し、現工法の有効性を検証します。</p>
助成対象等	県事業
県予算額	4,680千円(215,200千円)
担当室・グループ	水産資源室 水産政策グループ（水産研究所 0599-53-0016）

事務事業名	赤潮・底泥対策技術開発事業（県単 平成19年度～）
事業の概要	<p>自然の自己修復機能を利用した赤潮の発生防止技術を開発するとともに、生態系に大きな被害を与える貧酸素水塊の規模縮小を図るため、その発生原因となる底泥の堆積メカニズムについて調査します。</p> <p>①陸域起源物質が海域の一次生産等に及ぼす影響の把握 森林、農耕地等の陸域から流出する物質の動態把握、それらが沿岸域の低次生産に及ぼす影響を評価し、閉鎖性海域の環境再生に向けた流域管理手法を開発します。</p> <p>②底泥の堆積過程の解明と堆積抑制手法の開発 流域の土地利用形態及びそれらの歴史的変遷と海底堆積物の特性との関係を解析し、底泥の堆積メカニズムを解明するとともに堆積抑制手法を開発します。</p> <p>③自然の自己修復機能を利用した赤潮防除研究 ヘテロカプサ赤潮の防除対策として、特定のウイルスを活用した赤潮発生防止技術を開発します。</p>
助成対象等	県事業
県予算額	8,957千円(2110,003千円)
担当室・グループ	水産資源室 水産政策グループ（水産研究所 0599-53-0016）

事務事業名	みえの養殖魚安全確立推進事業（県単 平成22年度～）
事業の概要	<p>安全で安心な養殖魚を安定的に提供する体制の強化をはかるとともに、これら生産情報の消費者への発信等を支援します。</p> <p>①養殖魚類安全管理等推進懇談会 601千円（県事業） 養殖魚類の安全管理のため、流通関係者、消費者団体、生産者、学識経験者等を交えた、意見交換を行います。</p> <p>②T B T O養殖魚残留試験 995千円（県事業） 養殖魚類の安全性確認のため、県内全産地（26地区）の養殖マダイ（26検体）の、T B T Oの残留試験を行います。</p> <p>③消費者等信頼強化促進事業 500千円 （三重県海水養殖魚協議会 補助率1／2以内） 消費者の養殖魚類に対する信頼性の向上をはかるため、啓発イベントの開催、PR冊子の作成などに要する経費に補助を行います。</p>
助成対象等	県事業（①②）、三重県海水養殖魚協議会（③）
県予算額	2,096千円（21 - 千円）
担当室・グループ	水産資源室 水産振興グループ（059-224-2584）

事務事業名	元気な三重の養殖業推進対策事業（県単 平成22年度～）
事業の概要	<p>魚価の低迷など養殖業を取り巻く環境が厳しいなか、収益力向上等による力強い養殖経営体を育成・確保するため、新たな養殖技術の開発による複合養殖の推進や、養殖水産物の付加価値の向上による需要の創造を進めます。</p> <p>①みえの特色ある養殖推進事業 マダイ養殖における効率的な飼料の開発や、飼料に地域特産物を用いた柑橘マダイなど特色ある生産技術の確立などを進めます。 また、複合養殖のための新魚種（ハギ類）やヒジキ・アオサ等藻類の養殖技術の開発を行います。</p> <p>②養殖水産物付加価値向上調査事業 価格が高く、生産体制が整いつつある養殖マハタの販売戦略を検討するための調査事業や、黒ノリなど県内の主要な養殖生産物の付加価値向上のための技術開発動向の調査などを行います。</p>
助成対象等	県事業
県予算額	7,250千円（21 - 千円）
担当室・グループ	水産資源室 水産振興グループ（059-224-2584）

事務事業名	東紀州地域の水産業活性化対策事業（県単 平成19年度～）
事業の概要	<p>地域特性を生かした持続的養殖の推進や経営安定に向けて、ヒロメ（海藻）の複合養殖の技術開発に取り組むとともに、マハタの特産品化や、マダイ養殖の「生産情報公表養殖魚JAS規格」の認定取得に向けたモデル的な取組を支援します</p> <p>①ヒロメ複合型養殖推進事業 魚類養殖業の経営安定化を目指したヒロメの養殖技術の確立と地域特産化を推進します。</p> <p>②マハタ東紀州特産品化促進事業 地域住民等が行う「東紀州マハタ」のブランド確立に向けた取組を促進するため、宣伝普及やイベント用の材料として養殖マハタを提供します。</p> <p>③マダイ養殖JAS取得促進対策 マダイ養殖業の経営安定化と競争力強化を目指し、生産履歴や環境情報などを公表する「生産情報公表養殖魚JAS規格」の認証取得に向けたモデル的な取組を支援します。</p> <p>④マハタ種苗生産事業化促進事業費補助金 マハタ養殖用種苗の生産の安定供給体制構築のため、海洋深層水を活用した種苗生産技術の事業化を促進します。</p>
助成対象等	県事業（①②）、三重県漁業協同組合連合会（③） （財）三重県水産振興事業団（④）
県予算額	4,621千円（21 6,248千円）
担当室・グループ	水産資源室 水産振興グループ（059-224-2584）

事務事業名	みえの真珠養殖再生支援事業（県単 平成22年度～）
事業の概要	<p>厳しい経営状況の続く本県の真珠養殖業の再生をはかるため、優良母貝の安定確保や漁場環境モニタリング、新技術の実用化研究などの取組が一定の期間行われるよう支援します。</p> <p>○資金の造成（平成22年度） 県、市町、水産振興事業団等で構成する協議会が、一定の期間、真珠養殖業再生のために行う事業に要する経費を交付します。</p> <p>○協議会による支援の実施（平成22年度から10年間程度） 優良母貝の安定確保のための支援、漁場モニタリング体制の整備・支援、新技術実証化研究の委託など、真珠養殖業再生のために必要な事業を支援します。</p>
助成対象等	みえの真珠養殖振興協議会（仮称）
県予算額	50,152千円（21 ー 千円）
担当室・グループ	水産資源室 水産振興グループ（059-224-2584）

事務事業名	「みえのうみ」環境保全活動促進事業（県単 平成19年度～）
事業の概要	<p>里海「伊勢湾」を再生し、豊かな海の恵みを取り戻すために、県民が主体となった海の環境保全のための取組を促進することを目的として、流域や海域の環境情報の収集・発信、地域での活動の核として行動できる人材の育成、多様な主体が参加する流域ネットワークづくりなどを行います。</p> <p>①情報収集・発信の強化 「みえのうみ」ホームページの充実とPR等により、県民との環境情報の共有を進めます。</p> <p>②多様な主体との連携による流域の健康診断 漁業者等と連携して、自動観測ブイなどによる水質モニタリングを実施します。 市民グループ、学校等と連携して、生き物の多様性や伊勢湾の生態系に着目した流域の健康診断を実施します。</p> <p>③多様な主体の参加による流域ネットワークの定着 環境保全活動を牽引するリーダー育成及び、多様な主体が参加する流域ネットワークづくりを行い、自発的・主体的・継続的な環境保全活動へと広がっていきます。 小学校の総合学習の場で育成した人材が協働することなどにより、地域活動として定着を促進します。</p>
助成対象等	県事業
県予算額	5,321千円(215,511千円)
担当室・グループ	水産資源室 水産振興グループ(059-224-2584)

事務事業名	伊勢湾漁場環境浄化型漁業推進事業（県単 平成19年度～）
事業の概要	<p>水質浄化機能を有するアサリ、ノリなどの資源量や生産量を増大させ、生態系の保全・回復による伊勢湾の自然浄化能力の再生を図ります。</p> <p>①アサリ資源管理型漁業の促進 資源動態の解析や稚貝の放流効果調査等により漁業者が取り組む資源管理を促進します。</p> <p>②環境保全型ノリ養殖業の促進 養殖漁場の環境情報の提供や病害予防対策などの技術的指導を行い、ノリ養殖業の経営安定化を促進するとともに、ノリ養殖が果たす多面的機能について県民の理解増進を図り、消費拡大に努めます。</p> <p>③自主的な研究実践活動への支援 伊勢湾地域において、意欲ある漁業者グループが行うノリ養殖やアサリ漁業等に関する技術開発や試験研究等に対し補助し、漁業者の自主的な研究活動等の取組を促進します。</p>
助成対象等	県事業(①②)、漁業者グループ(③)
県予算額	2,398千円(213,021千円)
担当室・グループ	水産資源室 水産振興グループ(059-224-2584)

事務事業名	環境・生態系保全活動支援事業（一部国交付金 平成21年度～）
事業の概要	<p>藻場・干潟のもつ多面的機能の維持・回復を図るため、漁業者や地域住民など多様な主体の参画による、藻場・干潟の維持・管理等の保全活動を支援します。</p> <p>初年度の平成21年度は、7市町（桑名市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町、尾鷲市）の15組織が保全活動に取り組みました。</p> <p>平成22年度は、大紀町、熊野市を加えた9市町、19組織の取組が予定されています。</p>
助成対象等	実施主体：三重県環境・生態系保全活動支援協議会
県予算額	<p>12,832千円（21 9,236千円）</p> <p>協議会への拠出 11,000千円（県10/10）</p> <p>（別途、国から22,000千円、実施市町から11,000千円を拠出）</p> <p>市町村推進交付金 1,400千円（国定額）</p> <p>県事務費 432千円（国定額）</p>
担当室・グループ	水産資源室 水産振興グループ（059-224-2584）

事務事業名	流域の元気な未来づくりモデル事業（県単 平成22年度～）
事業の概要	<p>河川流域の多面的機能の回復をはかるため、内水面漁協組合員を含む地域住民等を対象とした、河川の多面的機能に関する学習会や、生物多様性の維持を目指した産卵床の造成など川づくりの技術を習得するための研修会の開催、及びこれらの取組の情報発信などの取組に対する支援を行います。</p>
助成対象等	実施主体：三重県内水面漁業協同組合連合会
県予算額	2,000千円（21 - 千円）
担当室・グループ	水産資源室 漁業調整グループ（059-224-2588）